

平成25年度「子どもをはぐくむ地域実践プロジェクト」
第2回地域家庭教育推進県中ブロック会議 会議録

■ 日 時：平成25年12月 6日（金） 13：30～16：30

■ 場 所：郡山市労働福祉会館（第2会議室）

■ 参加者：

滝田 良子 氏（郡山女子大学短期大学部幼児教育学科准教授）
瀧田 勉 氏（郡山市PTA連合会会長）
村上 和行 氏（福島県PTA連合会副会長）
三本木 正善 氏（郡山市子ども会育成会連絡協議会会長）
渡辺 征子 氏（郡山市スポーツ少年団副理事長）
佐久間作代子 氏（石川町主任児童委員）
塩田 富子 氏（家庭教育支援県中協議会会長）
内山 美佐子 氏（放課後子ども教室活動「あすなろ教室」コーディネーター）
森 勝雄 氏（須賀川市中央公民館館長）
石黒 真知子 氏（郡山警察署生活安全課専門少年警察補導員）
宇佐見 洋子 氏（家庭教育インストラクター）
針生 春子 氏（家庭教育インストラクター）
渡辺 さゆり 氏（郡山市民代表）
鈴木 俊明 氏（県中教育事務所総務次長兼総務社会教育課長）
吾妻 敦 氏（同 総務社会教育課主任社会教育主事）
松原 強 氏（同 総務社会教育課社会教育主事）
緑川 喜久 氏（同 総務社会教育課社会教育主事）



計：16名（3名欠席）

■ 内 容：

進行：緑川

1 開会

○ あいさつ（鈴木）

2 本日の会議の持ち方について（吾妻）

家庭教育の中でも子育て力に関わる内容であるが、平成16年度福島県の10代の人工妊娠中絶の実施率は全国ワースト2位であったが、平成20度は全国15位となった。これは、県の保健福祉部から取り組み始めたものが最終的には市民団体まで浸透し改善につながったものである。推進委員の皆様のような方々一人ひとりの取組の成果がこのような形となって表れていると感じている。現在、家庭教育の中では、産後鬱や孤立する母親・虐待・いじめ規範意識の低下など様々な課題があるが、本日参加されている方々は、それぞれの団体や立場で様々な実践に取り組んでいただいていることに感謝します。

県中地区としては、本事業の推進にあたってブロックセミナーを実施し、広く県民の方々に働きかけをしてきたわけだが、本日は、3年間の取組に対して忌憚のないご意見や反省点を出していただければと思う。

次年度以降について、ブロックセミナーが県全体で1回開催。子育てサポート養成セミナーはスキルアップ研修として県全体での開催となるなど変更はあるが、ブロック会議等は今年度のような形で実施される予定である。今年度の反省を次年度からの事業に結びつけていきたいと考えている。また、2月に開催される県地域家庭教育推進協議会では、県中地区が発表担当となっており、皆様の意見を届けることができるという意味でもぜひたくさんのご意見をいただきたい。

3 ブロックセミナーについての報告と反省（司会：滝田良子アドバイザー）

【ブロックセミナーについての報告】（緑川）

◆資料1ページ

- 10月6日に郡山労働福祉会館において群馬大学の音山先生を講師に「家庭教育を考える～若いも若きも、家庭・地域・学校も、それぞれの立場でコミュニケーションについて考えよう～」のテーマのもと昨年のワールドカフェとは少し違った話し合いのスタイルで実施。

◆資料2ページ

- 参加者は、高校生～80代の方で、県南地区からの参加もあり、合わせて66名が参加。
- 話し合いは、ワールドカフェの持ち味を最大限に引き出す「オープンカフェ」方式。
- 参加者から話し合いたいテーマを出してもらおうオープニングでは、推進委員の積極的提案をきっかけに多くの方が提案してくださった。

◆資料3ページ～

- どのグループに所属するかは、参加者の自由であり、そのグループに最後まで所属してもよいし、途中で別のグループに移動してもよい。休憩後には、新たな話し合いのグループができたり、移動される方がいたりした。
- 話し合いのテーマは、
 - グループ1「育ちにつながる幼児の教育・保育」
 - グループ2「保育者養成校の地域への発進力」
 - グループ3「子どもにとってよい環境とは」
 - グループ4「地域にボランティアの輪を広げるために」※休憩後にできたグループ
 - グループ5「子どもの基本的生活習慣」
 - グループ6「親の子離れはいつ」
 - グループ7「孤立した人々への支援」
 - グループ8「子どもをのばすコミュニケーション」

◆資料5ページ

- 参加された方からは、大変好評を得た。

◆資料6ページ・7ページ

- 子どもをしっかりと受け止め、きちんと教え・注意していきたい・コミュニケーションをとっていききたいであったり、若いお母さんや地域の人に話したり、助言したり、聞いたりしていきたいなど、子どもへの関わり方・親への関わり方・地域への関わり方に大きくまとめることができる。
- 今回参加された方は自分から関心を持って申し込んだ方が多かったこともあり、積極的に話し合いに参加し、今回のセミナーで得られたことに積極的に取り組もうとする姿勢が感じられた。
- 小さな取り組みが大きな輪へと広がっていくことを期待したい。

【質疑・反省】

滝田 *県中地区ブロック会議アドバイザー

昨年とは違うスタイルのカフェ。人数は昨年よりも少なかったが受け身ではなく自分から参加されていたので、その分内容的には深いものがあり、参加者の満足度も高かったのではないかと思います。

都合で参加できなかった推進委員からは質問をいただき、参加された方は準備・話し合いに入るとき・テーマの決め方・途中でのチェンジなどについても含めながら参加しての反省等を話していただければと思う。

村上

セミナーに参加された方にとっては有意義なものとなったが、問題はこういう機会に参加されていない方にどう届けていくのかだと思う。

子どもに何を求めるのかについては、社会の中で自立していくことができるようにと願い接している。今回のカフェのような体験・時間というのは何度も繰り返して、一人でも

多くの方が新しく参加していくことで成果が上がると思う。

滝田

繰り返すことによって発進力が高まっていく。大人でも子どもでも繰り返すことが大切なのだと思う。

森

今回参加できなくて残念であった。オープンカフェの中で行政や公民館・地域では何をしているのか、どんな関わりをしているのかなど行政に関して意見がなかったのか伺いたい。

緑川

グループ8で行政が乳幼児から小学生まで継続した支援をしていくことが大事なのではないだろうかということが話し合われていた。

滝田

話し合うテーマは、参加された方が自発的に出したもので行政の方がいけば行政についてのテーマが出たのかも知れないが、今回はなかった。

内山

昨年に引き続きセミナーに参加した。今回のような自分たちでテーマを掲げ話し合うというのはよかったと思う。集まったメンバーそれぞれが所属している団体について、情報交換しながら協議することで得るものが多かった。特に多様な職種や立場で話し合えたことで相乗効果が生まれた。乳児から幼稚園・小学校と継続して支援していくことでよりよい育ちにつながるのではないかという意見があった。

宇佐見

幅広い年齢層の方と業種を気にせず話せ、オープンカフェの目的でもある「コミュニケーションをとろう」ということではよかった。自分の思っていることをテーマに取り上げてもらえ、グループに分かれることができたことで、話し合いも活発になった。途中でチェンジがあったことは、すごくよかった。事前に「休みながら」とか「適度に自分で合間をとりながら」などについて説明があるとさらによかったと思う。準備については、推進委員として関わったが、当日変わったところもあり、役に立てたのか不安である。

渡辺さ

昨年と今年と2回参加している。前回のワールドカフェは賑やかで、いろんな意見が出て、いろんな人と情報交換ができ、すごく有意義であった。今年のオープンカフェでは、テーマごとにグループに分けたことで自分が気付かないことに気付くことができた。オンラインゲームなどについては、地元でも出てきている話題であり今回のカフェで話し合ったことは参考となった。また、講義形式ではなくみんなで参加し、みんなで考える話し合いの仕方や雰囲気作りなども参考になった。ぜひ活用したい。

針生

グループ6では参加された年代が幅広く、いろいろな話題が出た。親が関わらない状態で子どもたちがテレビやパソコンをしているという話やそのせいで親子の関わりがなくなっているなどの話を聞き、グループテーマである「親の子離れはいつ」の以前に問題があると感じるとともに今後、地域の中で自分にどんなことができるのか改めて考えさせられた。また、ゲーム等は自分一人の世界に入ってしまうため、コミュニケーションをとったり、相手を思いやる心がなかなか育っていかなくなったりすることを危惧していたが、セミナーに参加していろいろな人から話を聞き、地域でももう少し積極的に取り組んでいこうと思った。

佐久間

昨年度のワールドカフェの印象が強く、事前に委員にだけでもオープンカフェの情報が入っているとよかった。また、準備の段階でいろいろと変更があったのにも少し戸惑った。

話し合いでは、同年代の人のところを中心に3グループに参加した。主任児童員として活動し、問題のある家庭にはそれなりの事情があるのは分かっているが、やはりこういう場に出てこられない家庭に問題があるのだと改めて感じた。

滝田

昨年度のカフェとは少し違っていたので、事前にレクチャーしておくべきだったかもしれないが、今年はオープンにやっっていこうということで取り組んだ。

塩田

2年連続で参加した。推進委員として準備では意思疎通がうまくいかない部分もあって戸惑った。

話し合いでは、自分たちでテーマを掲げてグループになったのはよかった。そのなかで感じたことだが、家庭教育について話し合う場に出てこられない親に対しては、どう関わっていったらいいのか、どんな場を設定したらいいのかなどについてはずっと続いている難しい課題である。また、オンラインゲームの課題は初めて知ったが、友達と同時に繋がっているの、自分の子だけの注意ではすまない。そのため、親同士が意思疎通できて

いないと大変なことになってしまうと感じた。

三本木

グループ8「子どもを伸ばすコミュニケーション」等のテーマは、どのような背景で出てきたものなのか。また、「親の背中中」のような話がこのグループで出てこなかったのか知りたい。オンラインゲームについて話題となっているが、「断る」ことができないものか。「だめなものだめ」という考え方も家庭教育の一つの方向として必要なのではないか。

滝田

全員からお話を伺ったことから考えると、ブロックセミナーの持ち方については、一方的に聴講する形式ではない話し合いがよい。昨年度と今年度の違いを事前にレクチャーを受けていれば委員としてスムーズに取り組むことができたのではないか。「話し合いの雰囲気はすごくよかった。途中でチェンジすることで、違ったメンバーとの会話・コミュニケーションにもつながりよかった。」等の意見だと思う。会場のセッティングの仕方については、会場の雰囲気やメンバー等を見てから決めたものであったので、スムーズな指示にはならなかった。テーマについては、事前に調整することなくその場で直接提案する形だったので、バランスに欠ける部分があったのは否めないと思う。資料にはないが、高校生に聞いたことだが、大人の人は聞かれたことには答える程度で、自分の気持ちをまっすぐ話す・自分の意見を伝えるということは経験したことがなく貴重な経験ができたということであった。

宇佐見

次年度もカフェスタイルで行うのであれば、クロージングでは、グループで出たことを発表するだけではなく、意見をまとめて実践の方向を出していく必要があるのではないか。

森

「携帯・テレビ・パソコンが若者を墮落させている。これはヨーロッパも日本も同じである。」という話を以前したことがある。オンラインゲームについては、社会の問題であり、携帯・テレビ・パソコンについて意識して取り組んでいかないと大変なことになってしまう。料理講座で携帯に気をとられ食材を焦がしてしまうなど、公民館の講座中の使用もある。次年度は講座が始まる前に携帯を集めて講座に集中してもらおうと考えている。携帯は必要性よりも仲間とのつながりのために使っており、それは子どもだけでなく大人も同じである。また、親と一緒に講座に来た子どもが片時もゲーム機を離さない実態もある。使い方やマナー等について公民館としてできることに取り組んでいきたい。

渡辺さ

ゲームの危険性については以前から言われていることであり、若い親がそれをどれだけ自覚しているかが問題である。また、ここにいる委員さんのような方が地域の立場で学校と組んで取り組んでいくことが大切である。以前は「ノーテレビデー」などの取組もあったが、もう一度モチベーションを上げて取り組んでいくことも必要である。

森

携帯については、必要性について問いかけていく必要がある。

渡辺さ

高校生に聞くと、学校から帰ってきて携帯によって常に誰かとつながっており、友達と高校にいる気分が抜けない環境に「疲れる」という。しかし、切るわけにいかないので仕方がないと言う。

針生

通学時にバス停でバスを待っているときに携帯を出して確認し、バスに乗ってまた出して確認している姿をよく見かける。気が休まる時がないだろうと感じているが、それをしないと「シカトした」ということで仲間はずれにされることもあり、やめるわけにはいかないらしい。

森

重要な問題であり、我々としても警鐘を鳴らしていく必要がある。

渡辺さ

県教委の事業の中でも取り上げられてきたテーマであるが、今後も取り組んでいく必要がある。

滝田

とても大事なテーマであると思う。ブロックセミナーについての反省ではあるが、次年度の取組の課題として生かしていければと思う。

まとめの必要性についてご意見をいただいたが、「ワールドカフェ」はコミュニケーションツールの一つであり、話ができることが重要であり、自分の意見・思いを話すことで自分自身が気づき自己変革につなげていくことが目的である。まとめないというのがカフェの話し合いの方法の一つである。

4 地域家庭教育推進県中ブロック会議のまとめ（司会：滝田良子アドバイザー）

【各委員の取組について】

滝田 それぞれの団体や立場でこれまでの3年間にどんなことに取り組み、今後どのようにしていこうと考えているのか。さらには、子どもたちにどのようになって欲しいのか・どう育んでいったらよいのかなど、子どもたちの健全育成もふくめてお話しいただきたい。

三本木 子ども会育成会としても様々なことに取り組んできている。交流事業で「ドッジボール大会」を実施しているが、子ども同士だけでなく親子の絆・つながりを考え、親と子のドッジボールを今年行ってみた。親と子の会話が少なくなってきたと聞いていたが思っていたほどではなく、チームのミーティングの中で会話している姿が見られた。このような企画を地域の単位子ども会でも実施できればと思う。来年はもっと参加チームが増えるよう工夫したり、今年度同様親子旅行を企画したりしながら、親子のつながりということを考えていきたい。

塩田 セミナーでのグループテーマにもあったが、「子どもにとってのよい環境」づくりのためには、親子が親しくなるのが一番であると思う。また、夜型の生活となっている現在の環境を昼型にするためには、子どもたちだけやっても意味がなく、親と子が揃って昼型にしていく必要がある。親と子のコミュニケーションがたくさんあれば変わっていけると思う。

塩田 家庭教育支援県中協議会では、県中ブロックセミナーを研修の機会ととらえ参加するようにしている。石川地区では、石川町で中学生・高校生を対象に開設している子育てサポーター養成講座にスタッフとして関わっている。そこでは自分が研修に参加して聞いた10代の妊娠中絶の話やメディアの話などを行っている。聞いた子どもたちは、大人になったときに子育てしやすいのではないかと考えている。

佐久間 「親の背中を見て」ということに関してだが、幼稚園や小学校で家庭教育についての講師をしたときに親子のコミュニケーション・会話が少ないことについて、子どもが聞いているかどうかではなく、親として人生観や自分が大切だと思っていることを語っていくこと・発信していくことが大切であり、そうすることで親の背中を見て正しい方向に育つのではないかと話したこともあった。

佐久間 次年度も民生委員を務めることとなった。民生委員として子ども達がいる場所、親が集まる所に積極的に出て行き、いざというときに頼ってもらえるような信頼関係や環境を築いていきたいと思い活動している。また、以前勤めていた保育所時代のつながりを生かして、中学生と親しく関わるようにしながら地道な取組を大切にそこで得たものを役所や学校につないでいければと思っている。

針生 学校のサポーターとして10人ほどのメンバーでいろいろな行事に参加している。子どもや学校の先生との関わりは薄いと思うが、どこかで誰かが声を出していかないとと思い、子育てが終わった地域の人や子どもたちに働きかけながら積極的に地域で活動している。

針生 また、子どもたちに何かあったときの助けになればと思い「110の家」の看板を掲げている。しかし、常時在宅しているわけではないので、不在の時の対応がとれるように地域のつながりも大切であると感じている。地域の文化祭で工作やゲーム等を行う子どもコーナーを新設したところ評判がよかった。こんな取組も必要なのだと感じた。

渡辺さ ブロック会議がスタートした平成23年度は、郡山市のPTA連合会の代表として関わった。当時は原発問題もあり会議の内容について取り組むのは難しかった。平成24年度からは、一市民のボランティアとして関わらせていただいている。交通安全母の会では、自分も以前から思っていたことだが、ブロックセミナーのまとめにもあった「自分の考えを話せる場。誰かに悩みを聞いてもらえる場。」となるよう、お菓子やお茶を準備し会議終了後に気軽に話しながら情報交換ができるようにしている。その他、個人的に地域の行事等でお母さん達に話しかけながら、お母さん達の気持ちを吸い上げるような感覚で活動していこうと思っている。

滝田 会議の始まった当初は、PTAという立場でご意見等をいただいていたが、現在は一市民のボランティアという立場で関わらせていただいている。ボランティアの視点で見ていく

ことも大切であり、現在の活動をどう発展させていくのか、どう市民に還元していくのが今後大事であると思う。

宇佐見

家庭教育インストラクター以外に取り組んでいるCAPの活動について話をさせていただく。CAPとは、子どもたちが様々な暴力から自分を守るためのプログラムであり、身を守るための各種方法から選択することを繰り返し練習し、本来全ての子どもたちが持っている「生きる力」を引き出すプログラムとして自治体や学校等に提供させていただいている。また、学びの機会や集まりに参加できない母親を非難するのではなく、学びの機会があることを情報として繰り返し伝えていくことが大切であり、現在、様々な機会を捉え発信している。

内山

放課後子ども教室のコーディネーター以外に須賀川市の家庭教育インストラクターとしても活動している。須賀川市の就学時検診での子育て講座では、講義形式ではなくインストラクターが小グループに入っているグループ討議の形式をとっている。参加している母親の中には、すでに子どもを就学させているベテランの母親から初めて就学させる若い母親までおり、グループの中で悩み等を打ち明けるとベテランの母親からアドバイスがもらえる。インストラクターとしては、話しやすい雰囲気づくりを心がけ、安心して悩みなどを話せるようにしている。また、母親と学校とのパイプ役になり、母親が安心して子どもを就学させることができるように学校側と情報交換もしている。

常に家庭教育インストラクターの立場を意識しているわけではないが、積極的に中学生に声をかけたり、場をわかまえない小学生を注意したりと「うるさいおばちゃん」でいようと思っている。

森

3年間参加させていただいたが、柱は一つ「デジタル化からアナログ化へ」をめざし、公民館で意識して様々な事業に取り組んでいく。また、子どもの事業を展開することで、大人になったときに受講生として公民館のサポーターとなる可能性がある。子どものうちからパイプをつくっておくことが社会教育に生きてくることになる。この会議に参加させていただきたくさんのことを得ることができた。公民館の事業等で生かしていきたい。

行政はやってくれないという批判もあるが、やれない事情もある。子ども会でドッジボール大会を中心に親子のつながりをとという話もあったが、各団体でできることに取り組んでいくことも大事である。民と官の協働でやっていくことが大切だと思う。

村上

PTA総会で「家庭で子どもに呼ばれたら聞こえる声で「ハイ」と返事をする事」をお願いしている。成人式で呼名されても返事ができない新成人がいる。普段から返事することに慣れていないと、いざというときにできないものである。家庭の中で返事をする習慣を親から示していくことが大切であり、子どもも親がしていれば自然とするようになる。「ハイ」と返事ができれば「おはよう」や「おやすみ」が言えるようになり、普段会話が少なくても親子のつながりができる。「ハイ」という返事という何も準備しなくてもできることから取り組み、発信している。先日、芸能人が学校を訪ねる番組に、PTA会長をしている中学校が出たのだが、そこで、中学生が自然にあいさつをしてくれた。PTA会長として嬉しかったのだが、取り組みが少しずつ実を結んできているのかなと感じた。

滝田

各委員からこれまでの取り組みについて報告いただいた。うまくいかないこともあったかもしれないが、すばらしい取り組みであったように思う。また、せっかく取り組んできた会議を無駄にせず次に生かしていきたいという思いも感じられた。

休憩後は、次にどう生かしていくのか今後の方向性について検討していきたい。

— 休 憩 —

【今後の方向性について】

滝田 本事業については、今年度で終了であるが、次年度からも家庭教育についての事業は継続していく。次につなげるためにもある程度の方向性は示していった方が良い。今後への要望とも含めご意見を出していただきたい。

宇佐見 ブロック会議のメンバー構成が多種多様であり、大学の先生や福祉・医療・警察・一般市民等様々な立場の方が参加しており、有意義で心強い会議であったと思う。次年度からの会議のメンバー構成にも生かして行って欲しい。

内容的には、子育てをする親が安心して子育てできるような地域づくりをしていけるように、私たちのような立場の者が取り組んでいく必要があると思う。ブロック会議や研修会を通してスキルアップをしていきたいと思う。

森 3年間の会議で貴重な意見が出たことはよかった。また、自分自身の活動にヒントを得ることができた。今後、共有できた課題に対してどういう手立てをとっていくかが大切である。メンバーについては、高校生や大学生を入れることもよいと思う。中央公民館の設計のためのワークショップに高校生を入れたのだが、考え方が大変しっかりしていた。同じ方向を向いている大人だけを集まるのではなく若者を入れることで新たな考えが出てくるのではないかと。また、参加した若者にとってもよい経験となり、それが健全育成にもつながっていくのではないかと。思う。

結論は急ぐ必要はないと思う。我々の考えを押しつけるのではなく、社会は変化していくものなので、その時その時の課題を考えていくこのような会議を継続していくことが大切であると思う。

村上 自分の思っていることを自由闊達に話せる場を持つことは、無駄ではない。結論は得られなくても参加してよかったという思いを持つ人が増えていくことで少しずつ向上していくのではないかと。また、そのような場を今後も続けていくことが大切であると思う。

思いやりの心を育てていくことの大切さや子どもを育てるために若いお母さん達を育てていく必要があるということについては、再確認することができた。地域で子どもを育てる意識を多くの人に持ってもらいたいと思う。これまでも言われてきたことだがPTAにコミュニティのCを加えたPTACという考え方もある。

三本木 これまでのブロック会議やセミナーから学んだことをもとにどれだけできるかわからないが地域で取り組んでいきたい。最先端技術とアナログをどうミックスしてよい方向にしていくか考えていく必要がある。また、子どもたちの環境については、武蔵野大学の先生も言われていたが、学びの場所・遊びの場所等子どもの居場所であり子育ての場所である環境を良い方向で作っていくことも大切であると思う。また、悪いものは悪いとはっきり断れるような子に育てていくような子育ても大切である。

塩田 家庭教育に関する会議は大切なものであるので継続することが望まれる。セミナー等に参加できない・参加しない親への手当を考えていきたい。所属している団体では「セミナー」を研修の機会ととらえスキルアップのために参加している。先程あった「ハイ」という返事については、親子の間でも夫婦間でもおじいちゃんおばあちゃんとでも大切で、そういう視点でも家庭教育に取り組んでいきたいと思う。

佐久間 皆さんと同じだが、やはり出てこない親をどうやって引き出すか・参加させるかが課題であると思う。問題を抱え引きこもっている方にどう呼びかけるか今後検討していただきたいと思う。

針生 3年間取り組ませていただいた。小さい単位の地域の取り組みが周りへと派生し広がっていくと思うので、3年間学ばせていただいたことをもとに自分の住んでいる地域で取り組んでいきたい。

渡辺さ 各委員から出されていたゲーム・ITとの関わりはやはり重要であると思う。また、若い世代に親になるという意識が低いと思う。キャリア教育として幼稚園や保育園での実習などの体験を実施してきているが、核家族化が進んでいることや親の背中を見ていない子、見せていない親などのことから家族や親になること・子育てについて分からなくなって

きているのではないかと思う。親になるということについて高校生ぐらいから考える機会があればと思っている。別の話になるが、地元の小学校を訪ねたときに幼稚園・保育園で外遊びをしていない弊害で転びやすい子が出てきている。何でもないところでつまずいて骨折をした子もいるという話を聞いた。このことは、これからも続いていく問題であり、対応を考えていかなければならない。

宇佐見

推進委員の中では、若い年代であり、先輩から話を聞くことができたのは貴重であった。若い世代では、仕事の忙しさや核家族化のため子育てについて聞く機会が少なくなっている。先輩達の話聞く機会・場があると良いなと思うし、大切にしていきたい。

森

意識して話を聞いたり、記録を読んだりすることはためになることである。自分の意見も大切であるが、先輩から教えてもらう・話を聞くということ大切にしていきたい。また、人生の先輩として社会の変化に惑わされず大切なことを伝えていく必要もあると思う。

このような会は、継続することによって力になっていくのだと思う。今、課題になっていること・こだわることは何なのかということに参加者が共有できれば、そこからまた何か生まれてくるのだと思う。

村上

自分がよかったなという体験をどう発信し、伝えていくことが課題である。同じ事を伝えてもその人とのつながり・関係によって違ってくる。同意してくれる人もいれば、何にも感じない人もいる。決して焦らずゆっくりで良いので共有できる人に伝え仲間を増やしていくことだと思う。また、意識の差を埋めていけるようにしていくことも大切だと思う。

三本木

80代の方と中・高生との考えの違いを知ることができればと思った。所属している子ども会や郡山市のリーダーズクラブとの関わりで10代の子どもの良さや考えには触れる機会がある。我々の先輩である80代の方が今の子育てをどう思っているのか知ることができればと思った。

塩田

グループ5に参加していた70代後半だと思うが、その方は、家庭教育について話し合う場に出てこられない・出てこない親にどう声をかけたら・配慮したらよいかの気がなることだと話していた。

緑川

申し込みの段階になるが80代の方から、今の若い人はどういう考えを持っているのか知りたいということで申し込みがあった。

宇佐見

セミナーの中で70代になるのかわからないが、大学の先生から若い人たちは活動の場があると地域とつながることができ、それが地元に戻ったときにまたそこで活動の場が広がっていくと話されていた。これがすぐに結果は出ないが広がっていくということなのだった。

三本木

何でもないようなことが強く引きつけるということもあるし、普段何気なく聞いていることが受け入れられるということもある。

針生

自分が興味のあるテーマに参加する形だったので難しいが、グループ構成をするときにいろいろな年代の人がいるような構成ができるとよかったかもしれない。

グループ6に参加していた80歳ぐらいの方は、お華の先生として地域の人と交流したり、高校生にも気軽に声かけたりしているという話をされていた。セミナーのような場に出てきて自分の考えを話したり、子育て中の方の話を聞いたりしていることが元気の源となっている。高齢者の方も家庭教育については気にされていると思うし、私はもう年だからと遠慮される方もいるが、このような話し合う場を高齢者の方にも発信し、参加できるように働きかけをしていくことも必要だと思う。

宇佐見

先程の大学の先生は、子どもと高齢者の関係を教育の面だけでなく福祉と連携しながら協力して活動しているという話もされていた。

針生

なかなか家庭の中に高齢者と子どもと一緒にいるという環境がない。

三本木

いろいろな団体同士でコミュニケーションをとり、連携をとりながらやっていくことが大切ではないか。

針生

その時に主催する人が、声かけをして輪を広げていくようなお節介をしていくことが大切であり、なかなか出でこない人も一度出てくると違ってくるので、つながりが広がって

いけばと思う

森

須賀川の公民館では、高齢者講座を健康づくり課や社会福祉課との連携や医療機関の協力などを得ながら開設している。ある公民館の事業の一部に他の事業を取り入れてもらったり、一館単独では難しいことは、三館合同で実施したりと連携・タイアップすることで成果をあげている。

滝田

今後の方向性ということで確認させていただく。テーマについては設定することは難しいが、運営の方法としては、継続性が家庭教育を推進する上では重要ではないか。委員のメンバーは多種多様（場合によっては高校生や大学生も）であることがよいのではないか。内容については、委員からたくさん意見をいただき絞っていくことは難しいが、今まででできたことの中から検討していければよいと思う、ということになるのではないか。

今日は最後の会議であり、みなさんからたくさん意見を出していただいたことに感謝します。

5 総括（滝田良子アドバイザーより）

会議がスタートした平成23年度から振り返ってみたい。

平成23年度の第1回会議では、家族や親の役割などから基本的習慣の形成、生活面・学習面への影響、地域のつながりなどについて、第2回会議では、親子のつながり、コミュニケーション、子どもたちを取り巻く社会環境、それから東日本大震災で失ったもの・得たものなどについて話し合われた。

平成24年度の第1回会議では、「生きるとは」ということで、命の大切さ、大人と子どものつながり、地域と学校が連携していくことが大切なのではないかということ、さらには家庭での学習習慣が定着することによって学力が向上していくことについて話し合った。この中では、さきほどのスマホについての話の中ででていた「だめはだめというけじめをつけるべきではないか。」ということにもつながってくるのだが、判断力・決断力・責任の一体化の大切さについても出された。第2回会議は、推進委員でのワールドカフェ体験であった。

平成25年度の第1回会議では、保護者への関わり方と援助のあり方、地域の大人としての子どもたちへの関わり方について話し合った。

3年間の取り組みについて自分なりに振り返ってみると、推進委員の皆さんがいろいろな立場で、話していただいたことで「現代の子どもの問題点」を明らかにできたと思う。それは、「基本的習慣の未確立」「コミュニケーション能力の不足」「自制心規範意識の低下」「運動能力の低下」「学びに対する意欲や関心の低下」であるように思う。そして、これらを踏まえて「子どもの何を、どのように育みたいのか」ということを私たちはこれまで模索してきように思う。ある委員から「早寝早起き朝ご飯」がなぜ学校や地域の問題になってくるのだという意見があったが、そのとおりで、子どもたちに責任があるわけではなく家庭を基盤として育つ子どもたちにとっては、親側の問題であり大人の問題であり、家庭の養育力の低下が問題である。

家庭の養育力の低下の背景となるのは、健やかな心身の発達の基盤となる安定した人的環境の提供の場としての家庭が、少子高齢化や核家族化により規模が縮小したことがあげられる。そのことによって、家庭内で対人関係や食について育てられなくなったり、母親の育児負担が過重となったことで、精神状態や養育態度に問題がでてきたりしている。その結果、生活習慣の自立の遅れや自主的態度の欠如がでてしまうのではないか。

それから、保護者をはじめとする周りの大人との「社会的な相互関係性」を育成する家庭が成立してないのではないかとということもある。「ハイ」と返事をする・「おはよう」と言われたら「おはよう」と返すというような応答的対応がない家庭の状況では、基本的信頼関係が薄れてしまうために安定した家庭・家族となっていくかない。家族一人ひとりがばらばらに行動をとるなど家族のつながりが弱小化しており、従来の「家庭」のあり方が変化してきている。

さらには、基本的生活リズムなど子どもが社会の一員として生活するための基礎をしつける場としての家庭なのだが、保護者自身が親としてしつけができなくなっていることも関係している。自分の赤ちゃんの誕生で初めて子どもとの関係ができる社会環境となっており、しつけや子育て

に不安や悩みを抱える保護者は1970代増加していると言われていたが、今日の状況ではさらに深刻化していることを皆さんが言われたように思う。

もう一つ、地域環境の変化にともなう子育て環境の問題もあると思う。他人に関与する人が減り、他人の関与を歓迎しない人が増加している。個人主義が強くなり地域の間関係が希薄化する中、地域の大人が「地域の子ども」として考えているのか疑問である。また、物理的な遊び場の減少だけでなく、治安に対する不安から地域で遊ばせることができないなど、子どもの居場所がますます狭まっているため、子どもと地域の大人との関わりや子ども同士の関わりが少なくなり、子育てが孤立化しているのではないかということも話し合われた。

3年間のこの会議を通して、私たち大人の役割の重要性をさらに認識することができた。地域の中でそれぞれの立場で求められる役割がさらに拡大していくものと思う。今後、子どもたちに自信を育てていくことが大切であり、育てていけるよう各団体での取り組みに期待し総括とした。委員の皆様・事務局の3年間の取り組みに感謝します。

6 閉会

進行：緑川

- 御礼のことば（鈴木）
- 諸連絡（緑川）

※ 解散

7 その他

- 取材対応（吾妻）
 - ・ 福島民報社郡山本社、
 - ・ 福島民友新聞社郡山総支社
- 記録（緑川）

